

スポーツ振興に関する意見交換会実施報告書

開催日時	令和7年4月19日（土）午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	生涯学習センター
出席議員	【広報広聴会議】 委員長：松岡和行（誘導及びグループ④進行） 副委員長：加藤ゆうすけ（誘導及びグループ⑤進行） 池田徳重（受付及びグループ⑤記録） 高橋いずみ（受付、マイク受渡及びグループ②記録） 大貫次郎（受付及びグループ⑥進行） 堀りょういち（受付及びグループ③進行） 川本 伸（受付及びグループ③記録） 土田弘之宣（誘導及びグループ①進行） ひろなか信太郎（受付及びグループ④記録） 天白牧夫（誘導及びグループ②進行） 【スポーツ振興検討協議会】 委員長：加藤眞道（第2部報告及びグループ①リーダー） 副委員長：二見英一（司会及びグループ②リーダー） 山本けんじゅ（誘導及びグループ③リーダー） 竹岡 力（誘導及びグループ④リーダー） 菅原恵美子（誘導及びグループ⑥リーダー） 井坂 直（誘導及びグループ⑤リーダー） 安川健人（受付及びグループ⑥記録） （天白牧夫（誘導及びグループ②進行）） ※開会のあいさつとして、大野忠之議長及び伊関功滋副議長が出席
参加者	30名（申込33名）※30名のうち第1部のみ参加3名
実施内容	【第1部】講演 テーマ：スポーツによるまちづくりの進め方と要点 ～『ビジネスの視点』から考える～ 講師：関東学院大学経営学部准教授 奈良 堂史氏 【第2部】報告 ・現在検討中の条例案の説明 【第3部】意見交換 ・グループに分かれての意見交換 ・グループごとの主な意見の発表
実施結果 （主な意見）	別添

横須賀市議会議長 様

令和7年5月13日

上記のとおり報告します。

広報広聴会議委員長 松 岡 和 行

スポーツ振興に関する意見交換会意見まとめ

グループNo.	グループ①
担当議員	リーダー：加藤眞道委員長 進行・記録：土田弘之宣委員
参加者	4名
意見	私たちグループ①では、主に次のようなご意見・質問がありました。 ●条例案について ・条例をつくることで、点になっているのを線にしてほしい。 ・少子高齢化を意識した条例にしてほしい。 ●障がい者スポーツについて ・市役所の福祉部門とスポーツ部門の連携をもっと行ってほしい。 ・運動じゃなく、競技性の高いスポーツについて福祉部門も行うといいのでは。 ●ラジ体操の取組について ・ラジ体操は誰でもできる。 ・夏休みだけでなく、9月以降も参加する小学生がいる。 ・ラジ体操から公園のごみ拾い活動につながった例もある。 ●プロスポーツチームについて ・マリノスのキャンプや交流する機会をつくってほしい。 ・マリノスパークのイベント、子ども向けイベントをしたほうがいいのでは。 ・多くがファンクラブの会員限定になっており、広く市民が参加できるようにすればいいのでは。例えば、くりはま花の国とか広いところで行えばいいのでは。 ●場所について ・昔は空地がいろいろなところにあったが、今はない。 ・公園はスポーツを制限されている。 ・学生は、場所があれば集まる。例えば、横浜市の日産スタジアムの地下にBMXやバスケットがあって、たくさんの学生であふれている。 ●スポンサーについて ・モルック※の活動をしていて、スポンサーを探している。 ・スポーツ協会もスポンサーを探している。 ・ふるさと納税の呼び水にしては。

	●その他 ・スポーツは、成長する喜び・見る喜びが得られる。 ・スポーツ＝人生の思い出になる。 ・バスケをしてきたことで、家族全体でバスケの話でスポーツの話で盛り上がるようになった。 ・横須賀はいろいろスポーツをしているが、あまり知られていない。 ※モルック…フィンランドで開発されたスポーツ。地面に立て並べられた複数の木製のピンをめがけてモルックという木の棒を投げ、倒れたピンによって獲得した点数を競う。
その他 (報告に対する質問等)	・アーバンスポーツの聖地は移動するのか。 ・横須賀市はどれに一番力を入れているのか。野球？サッカー？アーバンスポーツ？

広報広聴会議委員長 様

令和7年5月7日

上記のとおり報告します。

記録者 土田 弘之宣

スポーツ振興に関する意見交換会意見まとめ

グループNo.	グループ②
担当議員	リーダー：二見英一副委員長 進行：天白牧夫委員 記録：高橋いずみ委員
参加者	4名
意見	○ 学生が学校の中だけでスポーツの機会を得ようとする、その学校にやりたい部活動がないと行うことができない。部活動のような扱いで、地域を含めて様々なスポーツにチャレンジできるチャンスの機会を提供して欲しい。 ○ 本条例だと高齢者に対するスポーツ推進が分かりづらい。生涯スポーツというカテゴリーはあるが、することだけではなく見る・支えるの視点で高齢者にも参加を促す説明が必要ではないか。 ○ 条例推進にあたり、税金だけの資金で運営するのは難しいと考える。歩道橋など街中にもネーミングライツを活用して資金の確保をしてはどうか。ただスポンサー探しも容易ではない。 ○ 今は男性も女性もハンディキャップのある方も着替える場所の確保は、しっかりと行わないとハラスメントにあたる。スポーツ施設の整備もしっかり行って欲しい。 ○ 条例に「障がい者」という表記があるが、「ハンディキャップ」という表記の方がいいのではないか。 ○ 総合体育館などの使用にあたり、抽選に漏れると使用することができない。条例が制定され、スポーツが活発化すると施設利用者が増えるので学校の体育館をもっと開放して欲しい。 ○ 世代別の広報戦略を考え、関心を引いたらどうか。若い世代はInstagramか TikTok で情報を得ているので市も始めてはどうか。情報は簡潔に短くまとめた方がよい。行政が作る動画は立派すぎるので、市民目線の動画を作成した方がよい。 ○ 地域スポーツ振興を率先して行う市民を創出するために、研修やポイント制度などを取り入れ、ポイントに応じて割引が受けられるなど、関心を引いてはどうか。
その他 (報告に対する質問等)	○ 横須賀市にとってメインで行うスポーツを決めるのは難しいのか。

広報広聴会議委員長 様

令和7年5月7日

上記のとおり報告します。

記録者 高橋いずみ

スポーツ振興に関する意見交換会意見まとめ

グループNo.	グループ③
担当議員	リーダー：山本けんじゅ委員 進行：堀りょういち委員 記録：川本 伸委員
参加者	5名
意見	【スポーツをする設備面について】 ・BMXの競技ができる設備で日々の練習などにはいいが、アスリートを目指している選手からしてみると、天候に左右されない室内練習場など、もう少し環境整備も含め充実させていただきたい。 ・様々な競技ができる合宿場のような設備があればいい。 ・コミュニティの場所として、また居場所づくりとしてスポーツをやる場所が必要。 【スポーツ人口を増やす取り組みについて】 ・平日は運動公園でテニスをしているが、コート利用率が60%、夜になると半分の利用率になってしまう。もっと利用率を高めるために料金を下げた方がいいと思う。 ・地域の中高年世代のスポーツ人口が衰退している。もっと積極的に町内会・自治会などに働きかけていくべき（成人ソフトボール、バレーボール等）。 ・高齢者になった時に介護を受けるリスクを低下させるためにも、子どものうちからスポーツに携わらせ、健康を維持するような推進をするべき。また肉体的のみならず、内面的なことも向上できる利点がある。 【スポーツを通じて市外から人を呼び込むことについて】 ・マリノスやベイスターズなどのサッカーや野球は、少し他都市との差別化は難しいが、その他のマリンスポーツやアーバンスポーツを横須賀の魅力としてアピールしている部分がいいと思う。 ・スポーツを通じて、市外から人を呼び込みたい。
その他 （報告に対する質問等）	

広報広聴会議委員長 様

令和7年5月7日

上記のとおり報告します。

記録者 川本 伸

スポーツ振興に関する意見交換会意見まとめ

グループNo.	グループ④
担当議員	リーダー：竹岡 力委員 進行：松岡和行委員長 記録：ひろなか信太郎委員
参加者	5名
意見	私たちグループ④では、次のようなご意見がありました。 ■リソースの問題 ①大会や合宿の際に参加者が泊まるホテルが少ないなど、スポーツイベントを開催するためのリソースが不足しているという意見が出ました。これにより、目標に向かって進めない可能性があるという指摘されました。 ②野球場などの運動場はあるが、更衣室の整備が不十分で今の時代、屋外で人目のある場所で着替えさせるのは男子であっても問題になると指摘がありました。 ③学校の体育館を一般に使いやすいように公開するアイデアが出ました。 ④障がい者の車椅子ダンスなど実施できる場所に限りがあるスポーツがもっと実施しやすい体制になることを望まれる意見が出ました。 ⑤市内のスポーツ団体毎が所有、管理している施設・物資・人的資源を把握して適切に運用できる制度にすべきとの意見が出ました。 ⑦スポーツの実施状況を広めるための広報リソースを整えるべきとの意見が出ました。 ■条例の実効性 ①今回の条例を形だけのものにせず、細部に落として実行可能なものにしてほしいという意見がありました。具体的な実行計画が必要であるとされています。 ②他市ですでに実施されているスポーツ条例を参考にしてより良い条例を作るべきとの意見が出ました。 ③横須賀市の将来ビジョンに合わせた目標が見えてこない。 ④各学校がスポーツ関連に対してどのような意向があるのかをヒアリングして意見を取り入れるべきとの意見が出ました。 ⑤条例を形だけにしないために市民にしっかり説明することが大切との意見が出ました。 ■予算とバランス ①やりたいことと予算のバランスを考慮しなければならないという意見が出ました。限られた予算の中でどのように効果的にスポーツ振興を進めるかが課題とされています。 ②スポーツの種類によって必要な予算に開きがあることを考慮すべきとの意見が出ました。

	■見る人やできない人への配慮 ①スポーツをやるだけでなく、見る人やスポーツをやりたくてもできない人への配慮も必要であるという意見が出ました。多様なニーズに応えることが重要とされています。 ②身体を動かすことだけがスポーツではなく、e スポーツなど幅広い概念を網羅する条例にしてほしい。 ③スポーツとケガは切っても切れない関係であり、注意喚起を怠らずに健康を害することのないよう配慮が必要との意見が出ました。 ■団体ごとの力の差 ①メジャースポーツとマイナースポーツの団体間で持つ力やリソースに大きな差があるため、市全体として統一感を持って進める際に注意が必要であるという意見がありました。 ②学校へのスポーツ講師の派遣を広く公募して、やる気がある人をどんどん起用すべきとの意見がありました。
その他 (報告に対する質問等)	

広報広聴会議委員長 様

令和7年4月21日

上記のとおり報告します。

記録者 ひろなか信太郎

スポーツ振興に関する意見交換会意見まとめ

グループNo.	グループ⑤
担当議員	リーダー：井坂 直委員 進行：加藤ゆうすけ副委員長 記録：池田徳重委員
参加者	5名
意見	① 「スポーツ振興条例」に横須賀の独自性を加えることについて ・独自性がないので横浜市の条例と言っても違和感がない。 ・海軍があったことによる歴史的なものも追加してはいかがか。 ・米海軍や自衛隊が存在することによる利点欠点も追加すべき。 ・横須賀市の特性として、①海と山がある。（トレイルランができる。） ②スポーツフィッシングができる。③e-スポーツができるインフラがある。 ② 各種スポーツの競技人口を把握し施策に反映する必要性について ・把握できているのはクラブ等への加入者及び試合に出た人達である。 ・その他の愛好家の人数は把握できていない。 ③ スポーツ関連予算について ・日本のスポーツ関連予算は少ない。（豪の1／4、仏の1／5） ・仏米は企業が個人競技者を支援している。 ・横須賀市は市外からの人を優遇する一方、市民の負担が多い。 ・特に高齢者に対する支援が望まれる。 ・横須賀市の選手が遠征する際の支援金が少ない。 ④ スポーツがしやすい施設の整備について ・青少年の家がなくなって気軽に卓球ができる場所がなくなった。 ・コミュニティーセンターが有料になったことから所得が少ない人がスポーツをできる場が制限されている。 ・中国は街中いたる所に卓球台があって、練習できる環境であったことから技量が向上した。 ・近隣市町村と連携して練習場所を確保すべき。 ・長井コミュニティーセンターには駐車場が少なく（2台）不便である。 ⑤ 学校の体育／部活動について ・学校には武道家がいらない。市民経験者を活用すべき。 ・部活の地域移行が円滑に行われ、部が継続されることを願う。 ・知識がない教員が子どもに体育を教えるのはむしろ危険である。
その他 （報告に対する質問等）	スポーツ推進に関し、国、市の役割分担はどうなっているか？

広報広聴会議委員長 様

令和7年4月23日

上記のとおり報告します。

記録者 池田徳重

スポーツ振興に関する意見交換会意見まとめ

グループNo.	グループ⑥
担当議員	リーダー：菅原恵美子委員 進行：大貫次郎委員 記録：安川健人委員
参加者	4名
意見	1、青少年の家が閉鎖して使えなくなって困っている。体育館も抽選で使いつらい。県内他都市は使える施設が沢山あるが、横須賀市は、施設が足りないと感じている。 2、子どもたちのスポーツができる場がもっと欲しい。ゲームセンターに行ってしまう、なかなか運動ができない。子どもから大人までのスポーツができる場所を確保してほしい。 3、高齢者が介護施設に行かなくても、自分で運動できる機会を作る。 4、市民で大きな大会等で活躍した人をみんなが知れるように功績を讃えることで、運動する動機づけや郷土愛が深まるのではないかな。 5、市内でのイベントが沢山あり、人が集まる機会が増えることはとても良い。イベント情報がみんなに届くように発信して欲しい。 6、条例に財源確保の前提となる仕組みを取り入れて、国や県からの支援も受けて活用して欲しい。 7、官民連携、近隣都市との連携で大きなイベントなども企画してほしい。 8、アスリート支援だけでなく、アスリート活用が講師の方から提案されたが、介護の業界で柔道選手などの手を借りることを検討中。
その他 (報告に対する質問等)	

広報広聴会議委員長 様

令和7年4月22日

上記のとおり報告します。

記録者 安川健人